



## 季節を知ったら 暮らしが楽しくなった

〈第五十二号〉

立春

二月四日

## 有滝のタコ

昔、唐から伝った獅子舞は舞楽として演奏されましたが、後にその靈力の強さから五穀豊穰や厄除けとして、新年の祝いに行われるようになりました。この地方でも正月から二月の中ごろにかけては各地で盛んです。

宮川の左岸、伊勢湾に面した有滝の町では、先月十一日にありました。ここでは縁起物にタコが登場することで知られています。夜六時半過ぎ、かがり火が赤々と焚かれた公民館の広場には大勢の人々が集まっていました。

タコは公民館の座敷の床の間に、雌雄一対が鎮座していました。といっても生きたものではなく、ワラで編まれたタコ。八本の足がしっかりとついています。これは祭の当屋、中村さん宅で祭り専用の田んぼで収穫されたもち米のワラで手作りされたもの。タコには鏡餅とお神酒が入った赤桶がお供えされています。

獅子舞の終盤、当屋がタコを持参し、獅子の口にかませました。そして、見物人の方に放り投げます。一杯、二杯、大勢の青年らがタコの取り合いをします。足を取ると、大漁が約束されるといわれ、必死にタコの足をつかもうとしているのです。有滝ではかつてタコ漁が盛んだったことから、大漁を祈願してワラ製のタコが作られるようになったといえます。

獅子舞の後、当屋宅にお邪魔すると客人をもてなしたご馳走が並んでいます。なんと六十人分を用意したとか。昔ながらの当屋の務めを目の当たりにしました。外でドンドンと祭り太鼓が鳴り響いてきました。獅子が帰っていく時は、人は外に出てはいけけないのだといえます。

獅子舞がすむと、玄関以外の注連縄をはずすのが習慣とか。曆の上では立春。正月が過ぎ、春を迎えます。

文 千種清美

